

ボローニャ・プロセスに関するオーストラリア動向 1

2007年7月25日

OFIAS リエゾン・オフィサー 新井早苗

0. ディプロマ・サブプリメント

- ・ 「学位証書添付資料」、「学位補遺」、「学位付属書」
- ・ 学位・卒業証書の英語による添付資料で、当該国の高等教育システムと学修課程の構造・内容ならびに成績評価に関する詳細な情報の採用を含めて、理解しやすく比較可能な学位制度を採用すること(吉川裕美子「ボローニャ・プロセスの骨子」より)
- ・ 1997年リスボン協定 The Lisbon Recognition Convention

1. 2002 ディプロマ・サブプリメント・パイロット・プロジェクト

- ・ 1997年リスボン協定
- ・ 2002年、及び2005年にプロジェクト実施
- ・ オーストラリア教育科学訓練省(Department of Education, Science and Training)予算
- ・ ディプロマ・サブプリメント発行のコストや影響に関する調査
- ・ 参加大学(7機関): Canberra Institute of Technology、Central Queensland University、Monash University、Queensland University of Technology、RMIT University、Swinburne University of Technology、The University of Queensland
- ・ 2005年5月成果報告書では以下が課題としてあげられた:(1)現行の testamus や transcript との内容重複、(2)学位レベル等を含むプログラムの記述方法、(3)多機関共通ソフトウェアによる処理とコスト、(4)プライバシー保護、(5)卒業生1人あたりの発行コスト

http://aei.dest.gov.au/AEI/GovernmentActivities/DiplomaSupplement/DS_DEST_Activities_pdf.pdf

2. オーストラリアのボローニャ会合参加

- ・ 2005年ベルゲン会合にオブザーバーとして招待され、参加
 - (1) Wemdy Jarvie (Deputy Secretary, Department of Education, Science and Training)
 - (2) Carol Nicoll (Minister-Counsellor, Australian Mission to the European Union)* 他に米国(University of California, Berkeley; Council of Graduate Schools; American Council on Education)、チリも参加している
- ・ 2007年ロンドン会合にもオブザーバー参加
 - (1) Carol Nicoll
 - (2) Grahame Cook* 他に非署名国からはカナダ、チリ、ニュージーランドが参加している

3. アジア太平洋教育大臣会合 The Asia-Pacific Education Ministers' Meeting (2006年4月3日・4日)

- ・ オーストラリアが呼びかけ、アジア太平洋地域の教育大臣会合を開催(於: ブリスベン)
- ・ 27カ国から参加: オーストラリア、バングラディッシュ、ブータン、ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア、中華人民共和国、イラク、キリバス共和国、モルディブ共和国、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、ナウル共和国、ネパール、ニューカレドニア、オマーン国、パキスタン、パプア・ニューギニア、フィリピン、韓国、サウジアラビア、スリランカ、タイ、トンガ、トルコ、バヌアツ、ベトナム
 - * 参考1: オーストラリアへの留学生の出身地域(p.5)
 - * 参考2: 東アジア太平洋諸国からのオーストラリアへの留学生派遣状況(pp.5-6)
- ・ ブリスベン・コミュニケ: 地域における国際化の必要性、地域の学生・教員の移動促進

4. ディスカッション・ペーパー「The Bologna Process and Australia: Next Steps」(2006年4月4日)

- ・ 別添1
- ・ オーストラリア政府(教育科学訓練省)が、自国高等教育セクター内でボローニャに関する議論を盛り上げる為に発行
- ・ オーストラリア政府としては、基本的にボローニャと歩調を合わせていく方針で、また、自国内だけでなくアジア太平洋地域全体で「ボローニャ・コンパティブル議論」でイニシアティブをとっていきたい模様。
- ・ 主な内容:ボローニャ・プロセスの概要、ボローニャと歩調を合わせていくための課題の指摘、議論のための具体的な問題の提起(参考3 Next Steps::議論のための問題集、pp.6-7)、積極的なフィードバックの募集(提出期限4月30日)など

5. ディスカッション・ペーパーに対するオーストラリア国内からの反響

- ・ 34 機関より意見書(参考4:ディスカッション・ペーパーに対して意見書を提出した機関リスト)
- ・ ボローニャ・プロセスのインプリケーションに関し慎重
- ・ 指摘された主な課題:国としての取り組みの必要性、アジア太平洋地域のパートナーとの調整、コスト(学生への財政的支援やオーストラリア連邦の予算配分への影響含む)
- ・ 専門職諸協会:「学位システムを合わせていくのは必須」~「国内スキル需要への影響が心配」
- ・ オーストラリア大学質機構 Australian Universities Quality Agency (AUQA)が European Register of Quality Assurance Agencies に加わることに大半が同意
- ・ オーストラリア国立大学(ANU)(別添2):「学部3年制対4年制、オーストラリア独自の Honours year 制度(学部課程を優秀な成績で無事終了した学生は、さらに1年間より専門的な勉強を続けて大学院で学ぶ為の基礎を固める)」に対する無理解等々、ボローニャのフレームワークは、北米のそれと並べられるべきである」、「ANU は戦略として International Alliance of Research Universities など海外トップ研究大学との提携を進めており、様々な学位システムや教育モデルとの調整をかねてより検討している」、「ANU は学年カレンダーの見直しも検討中である」
- ・ オーストラリア副学長委員会(The Australian Vice-Chancellors' Committee)(別添3)(2007年6月7日):「ボローニャ・プロセスとの関わりによってオーストラリア大学システムの多様性や特にアジア太平洋地域の海外パートナーとの協力関係が損なわれたり、画一化政策が取られたりすることがあってはならない」

6. 教育科学訓練省ブリーフィング・ツアー「State Based Consultations」(2006年7月21日~8月3日)

- ・ 別添4
- ・ 於:メルボルン、シドニー、ブリスバーン、キャンベラ、パース、アデライド
- ・ ボローニャ・プロセスとの調整は上からの押しつけでないこと、関係機関からフィードバックを得て政府がリーダーシップを取るべき点があるかどうか、もしそうならどのように行うかを探る姿勢であることを強調

7. ボローニャ・ナショナル・セミナー(2006年9月7日)

- ・ 於:オーストラリア国立大学
- ・ 参加者数:150名
- ・ Julie Bishop 教育科学訓練相「政府は、協議してオーストラリア版ディプロマ・サプリメントを考案する大学コンソーシアムに対し40万ドルを出す」、「ボローニャや関連した動きをモニターするために、高等教育セクターや教育科学訓練省の代表からなるスティアリング・グループを設置する」
- ・ 議論アウトライン

セッションA: 学位システムと単位互換

- ・ボローニャ・プロセスは当初政府主導だったが
 - ・今や各機関が、自己の目標を達するために政策改革を求めている
 - ・オーストラリアでも政府はもっと政策や予算配分において柔軟になる必要がある
- ・オーストラリアにとっての機会
 - ・何が我が国のためになるか明確にする必要がある
- ・その他
 - ・修士に関しては問題がある
 - ・ダブル・ディグリー
 - ・学年
 - ・教育の個別ユニット
 - ・誰が第2課程(セカンド・サイクル)の学費を負担するのか
 - ・専門職者や雇用者はどう考えているか
 - ・中国やインドについては？

セッションB: ディプロマ・サブプリメント

- ・ディプロマ・サブプリメントはヨーロッパではこれまでの成功点のひとつ
- ・各機関をベスト・プラクティスへと向ける機会
- ・オーストラリアでの実施は、共通問題(例として IT システム開発)での協力により得るものがある
- ・以下のような長期的な利点もあるだろう
 - ・雇用可能スキルへの好影響
 - ・高等教育機関と職業訓練システム間の移動促進

セッションC: 専門職への影響

- ・オーストラリア機関の多様性の強化とヨーロッパ側の期待とのつりあわせ
- ・学生への資金援助、HECS(Higher Education Contribution System) 高等教育助成制度や博士課程奨学金の拡大の必要、第2課程
- ・卒業生の雇用可能性: スキルの移転可能性の必要、Industry Placement 職業体験、職場での柔軟性
- ・卒業生の移動性
- ・名称: 「honours year」はどうなるのか。建築大学院の反応は？

セッションD: 国際的な面

挑戦

- ・ヨーロッパ高等教育輸出市場はまだ 1980 年代のオーストラリアの段階
- ・しかしオーストラリアの競争力に挑戦する日もそう遠くない
- ・ラテン・アメリカもボローニャに合わせていくようである

機会

- ・ヨーロッパからの留学生の増加
- ・ヨーロッパへのオーストラリア人留学生の増加
- ・ボローニャから学ぶことをブリスベン・プロセスに応用する: 地域リーダーとしてのオーストラリアには多くの利点
- ・平行するアジェンダに関しヨーロッパと密接に調整していく

適合性/調整

- ・ディプロマ・サブプリメント(UNESCO-リスボン協定での確認)
- ・ECTS/UCTS: エラスムスはこれなしには不可能だった
- ・4 年制学士
- ・オーストラリアの研究学位は高く評価されるべき
- ・ボローニャ・プロセスには学生も教職員も参加することが重要

8. オーストラリア版ディプロマ・サブプリメント・プロジェクト Development of a National Diploma Supplement

2006 年 10 月: 大学機関にコンソーシアム結成に関する募集通知を送付

2007 年 1 月 10 日: 採択機関発表。ニューイングランド大学、オーストラリア国立大学、メルボルン大学をリーダーに 14 大学。リーダーは(1)Professor Richard James, Director of the Centre for the Study of Higher Education (CSHE) (メルボルン大学)、及び(2)Professor Lynn Meek, Director of the

Centre for Higher Education Management and Policy (CHEMP) (ニューイングランド大学):

The University of New England
The Australian National University
The University of Melbourne
Charles Sturt University
Edith Cowan University
Griffith University
Queensland University of Technology *2002年のパイロット・プロジェクトにも参加している
Swinburne University of Technology *2002年のパイロット・プロジェクトにも参加している
The University of New South Wales
The University of Sydney
The University of Canberra
The University of Newcastle
The University of South Australia
Victoria University

(プロジェクトウェブサイト: <http://www.une.edu.au/pdal/research/chemp/projects/dipsup/index.php>)

2007年5月3日: ナショナル・ワークショップ開催(於:メルボルン)

2008年1月: オーストラリア版ディプロマ・サブリメント・プロジェクト終了(予定)

9. 追加情報: APQN2008年総会におけるオープンシンポジウム

2008年2月19日

テーマ: What's "University"? – from QA community- 『ユニバーシティ』とは? – 質保証の観点から –

主催: Asia-Pacific Quality Network (APQN) アジア太平洋質保証ネットワーク、独立行政法人 大学
評価・学位授与機構

後援: 文部科学省(予定)

開場: 幕張メッセ

<http://www.the-convention.co.jp/apqn2008/opensymposium/japanese.html>

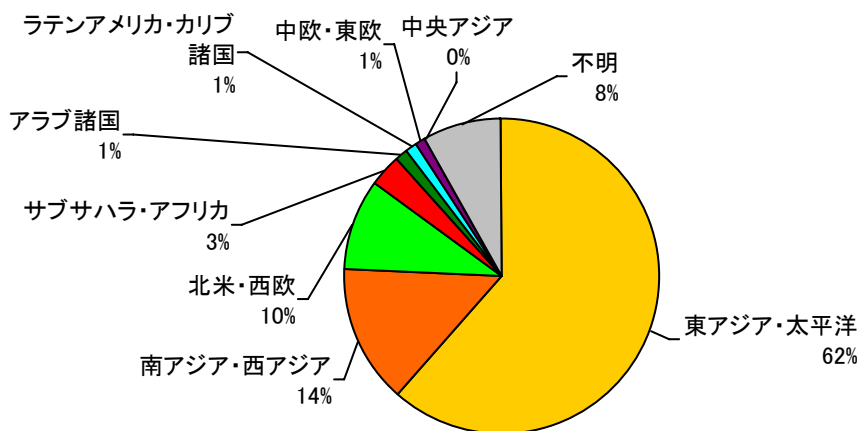
* アジア太平洋質保証ネットワーク Asia-Pacific Quality Network (APQN)

- ・ 2003年設立
- ・ オーストラリア大学質機構 Australian Universities Quality Agency (AUQA)内に事務局をおき、オーストラリアの非営利法人格をもつ
- ・ 高等教育質保証機関の国際ネットワーク International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education (INQAAHE)の地域ネットワークであることを明確に掲げ、ミッションとして、質保証機関の機能を強化し、機関間の協力を拡大し、アジア太平洋地域の高等教育の質を高めることを掲げる
- ・ ユネスコのアジア太平洋の定義を原則とし、北はロシア、西は中央アジアのトルクメニスタン、南はニュージーランド、東は太平洋の島嶼国と広い範囲をカバー。発展途上国が多いのも特徴
- ・ 日本からは大学基準協会、大学評価・学位授与機構、日本技術者教育認定機構が正会員加盟
(大学評価文化の展開 独立行政法人大学評価・学位授与機構編著 2007年6月 株式会社ぎょうせい、p.163より)
- ・ President: Mr Peter P T Cheung (Elected), Hong Kong
- ・ Vice-President: Mrs Concepcion Pijano (Elected) Philippines
- ・ Secretary/Treasurer Ms Dorte Kristoffersen (Elected) Australia
- ・ Board Member Dr Akihiko Kawaguchi (Elected) Japan, Mrs Zita Mohd Fahmi (Elected) Malaysia, Dr Jiang Yanqiao (Elected) CHINA, Dr Nuanthip Kamolvarin (Elected) THAILAND, Dr Antony Stella (Co-opted) Australia, Dr Jagannath Patil (Co-opted) India, Prof. Colin Peiris (Co-opted) SRI LANKA, Dr Sohail Naqvi (Co-opted) PAKISTAN

以上

参考1 オーストラリアへの留学生の出身地域

地域	留学生数
東アジア・太平洋	102,575 人
南アジア・西アジア	23,347 人
北米・西欧	16,115 人
サブサハラ・アフリカ	5,344 人
アラブ諸国	2,481 人
ラテンアメリカ・カリブ諸国	1,911 人
中欧・東欧	1,536 人
中央アジア	158 人
不明	13,487 人
合計	166,954 人



UNESCO Institute for Statistics (2006), *Global Education Digest 2006: Comparing Education Statistics Across the World*, p130 をもとに新井作成

参考2 東アジア太平洋諸国からのオーストラリアへの留学生派遣状況

国名 (英語アルファベット順)	該当国から外国への全留学生数	オーストラリアへの留学生数	全留学生中オーストラリア行き	オーストラリアは派遣先第1位か(そうでない場合には行き先第1位の国名)
ブルネイ	1,886	753	39.9%	○
カンボジア	2,250	177	7.9%	×(フランス)
中国	343,126	28,309	8.3%	×(米国)
クック諸島	30	8	26.7%	×(バブア・ニューギニア)
北朝鮮	1,139			×(イタリア)
フィジー	1,451	758	52.2%	○
香港(中国)	34,199	13,165	38.5%	○
インドネシア	31,687	10,184	32.1%	○
日本	60,424	3,172	5.3%	×(米国)
キリバス	125	19	15.2%	×(米国)
ラオス	1,463	117	8.0%	×(ベトナム)
マカオ(中国)	853	282	33.1%	×(米国)
マレーシア	40,884	16,094	39.4%	○
マーシャル諸島	25			×(米国)
ミクロネシア連邦	184			×(米国)
ミャンマー	2,503	211	8.4%	×(米国)
ナウル	1			×(英国)

ニュージーランド	6,513	4,524	69.5%	○
Niue	12			×(米国)
パラオ	95			×(ニュージーランド)
パプア・ニューギニア	896	648	72.3%	○
フィリピン	6,974	674	9.7%	×(米国)
韓国	95,885	3,915	4.1%	×(米国)
サモア	356	65	18.3%	×(ニュージーランド)
シンガポール	20,725	11,200	54.0%	○
ソロモン諸島	296	77	26.0%	×(パプア・ニューギニア)
タイ	23,727	5,449	23.0%	×(米国)
東ティモール民主共和国	266			×(ポルトガル)
トケラウ				
トンガ	394	58	14.7%	×(ニュージーランド)
ツバル	30			×(ニュージーランド)
バヌアツ	149			×(パプア・ニューギニア)
ベトナム	15,817	2,619	16.6%	×(米国)

UNESCO Institute for Statistics (2006), *Global Education Digest 2006: Comparing Education Statistics Across the World*, p133 をもとに新井作成

* Australian Government Australian Education International によると 2006 年データによるトップ10マーケットは学生数順に: 中国、インド、マレーシア、香港、インドネシア、シンガポール、韓国、タイ、台湾、バングラディシュ (http://aei.dest.gov.au/AEI/PublicationsAndResearch/Snapshots/23SS07_pdf.pdf)

参考3 Next Steps: 議論の為の問題集

- ・ オーストラリアの高等教育セクターがボローニャ・プロセスに合わせていくことはどの程度重要か
- ・ ボローニャ・コンパティブルを目指すにあたって、オーストラリア高等教育機関の自律性や多様性への影響は？
- ・ 欧州での動向に注意を払わずにいるとどのようなリスクに面することになるか
- ・ オーストラリアは、ボローニャと適合する3サイクル学位制を達成するにあたって後は何をしたらよいか
- ・ オーストラリアの「優等学位制 honours degree」に対しどのような意味を持つか
- ・ ベルゲン宣言では博士課程には学際的訓練、転用可能技術を含めるべきとされたが、オーストラリアの博士課程の内容を見直す必要はあるか
- ・ 現在の予算配分システムやその他規則構造を再考する必要があるのか
- ・ ヨーロッパ単位互換制度に適合するよう、更にオーストラリアの単位互換システムについて何かする必要はあるのか
- ・ 今以上に何かしなくてもオーストラリアの認証システムはボローニャの基準に合っているか
- ・ ボローニャ・プロセスの我が国とアジア・太平洋地域各国政府や教育供給者との関係、またはもっと広くは世界の教育コミュニティとの関係への影響に対してどのような行動をとるべきと考えられるか
- ・ 確実にオーストラリアのステークホルダー全員にボローニャのアップデートを周知させていくにはどのようなプロセスが必要か
- ・ 個々の機関にとってボローニャに合わせていく財政、資源、時間的コストはどれぐらいか
- ・ 労働力移動性という点で、ボローニャとの適合性は本当に我が国の大学卒業者や雇用者に利益をもたらすのか
- ・ 我が国の現行の短く安上がりなコースに比べ、ヨーロッパに合わせた長いコースはオーストラリア学生や留学生にとって魅力的なのか
- ・ 「Diploma Supplement」の導入は可能か、有益か。

参考4 ディスカッション・ペーパーに対して意見書を提出した機関リスト

* 各ペーパーの詳細内容は以下を参照のこと:

<http://aei.dest.gov.au/AEI/GovernmentActivities/BolognaProcess/Submissions.htm>

1. Association of Architecture Schools of Australasia (AASA)
2. Association of Consulting Engineers Australia (ACEA)
3. Australia Academy of Technological Sciences and Engineering (ATSE)
4. Australian Catholic University
5. Australian Council of Engineering Deans (ACED)
6. Australian Council of Deans and Directors of Graduate Studies (DDOGS)
7. Australian Dental Association Inc (ADA)

8. Australian Medical Council (AMC)
9. Australian National University (ANU)
10. Australian and New Zealand Student Financial Advisers Network (SFAN)
11. Australian Technology Network (ATN)
12. Australian Universities Quality Agency (AUQA)
13. Australian Vice-Chancellors' Committee (AVCC)
14. Central Queensland University
15. Council of Australian Postgraduate Associations (CAPA)
16. Deakin University
17. Edith Cowan University (ECU)
18. Group of Eight
19. Innovative Research Universities Australia (IRU Australia)
20. La Trobe University
21. National Tertiary Education Union (NTEU)
22. National Union of Students (NUS)
23. Parker, Professor Brendon
24. Queensland Office of Higher Education
25. The Royal Australian Institute of Architects (RAIA)
26. Shannon, Professor A G
27. University of Adelaide)
28. University of Melbourne
29. University of Newcastle
30. University of New England
31. University of Tasmania
32. University of Western Sydney
33. Victoria University
34. Victorian Qualifications Authority

別添資料

- ・ 1. オーストラリア政府教育科学訓練省ディスカッション・ペーパー
Australian Government Department of Education, Science and Training (2006), *The Bologna Process and Australia: Next Steps*
<http://www.dest.gov.au/NR/rdonlyres/D284E32F-98DD-4A67-A3C2-D5B6F3F41622/9998/BolognaPaper.pdf>
- ・ 2. オーストラリア国立大学 (ANU) からの意見書
The Australian National University (2006), Response to the Discussion Paper the Bologna Process and Australia: Next Steps
http://aei.dest.gov.au/AEI/GovernmentActivities/BolognaProcess/ANU_pdf.pdf
- ・ 3. オーストラリア副学長委員会 (AVCC) からの意見書
Australian Vice-Chancellors' Committee (2006), AVCC Response to Discussion Paper: The Bologna Process and Australia: Next Steps
<http://www.dest.gov.au/NR/rdonlyres/D284E32F-98DD-4A67-A3C2-D5B6F3F41622/9998/BolognaPaper.pdf>
- ・ 4. オーストラリア政府教育科学訓練省説明資料 (パワーポイント)
Australian Government Department of Education, Science and Training (2006), Australia and the Bologna Process (State Consultation)
http://aei.dest.gov.au/AEI/GovernmentActivities/BolognaProcess/BolognaPresentation_pps.pps

主な情報ソース

オーストラリア教育科学訓練省ウェブサイト

Australian Government Department of Education, Science and Training - Higher Education - International Education - The Bologna Process

<http://aei.dest.gov.au/AEI/GovernmentActivities/BolognaProcess/default.htm>

University of New England - Development of a National Diploma Supplement

<http://www.une.edu.au/pdal/research/chemp/projects/dipsup/index.php>